

SDG 14 海の豊かさを守ろう

プラスチックの

削減に向けて



プラスチック
はやくなくして



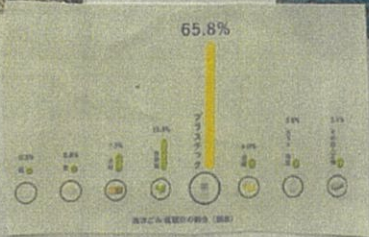
～目次～

1. 今の現状
2. プラスチックゴミによる生き物への影響
3. 各県、企業の取り組み
4. コロナ禍によるプラスチックの変化
5. 私達にはできること

プラスチックゴミ

1. 今の現状

海に行った時、たくさんのプラスチックゴミがありました。調べてみると、海洋ゴミの3分の2がプラスチックゴミで、日本の面積の4倍以上のプラスチックが、海を漂い続けているそうです。また、そのプラスチックによって、たくさんの生き物が傷つけられていることを知りました。私達人間が開発したもので、たくさんの生き物が傷ついている - それが今の現状です。



- 1 -

2. プラスチックゴミによる生き物への影響

「ウミガメがビニル袋を餌と間違えて飲み込んでしまった」「クジラのおなかから、たくさんのプラスチックゴミが出てきた」など、聞いたことがある人もいるのではないのでしょうか。調べてみると、690種類以上の野生動物が被害にあっているとされていることが分かりました。また、ウミガメは52%、海鳥は90%以上が生涯のうちにプラスチックを一度は摂取しているそうです。

マイクロプラスチックの害

魚がマイクロプラスチックを食べると、プラスチックに付着した毒素が体内に侵入し、毒素が蓄積されるそうです。また、その魚がより大きな魚に食べられることで、マイクロプラスチックの濃度はどんどん上がっていくそうです。また、人がマイクロプラスチックを摂取すると、がんの発生率が上昇したり、生殖機能が低下すると言われているそうです。プラスチックはこわいですよ将。

- 2 -

3 各県、企業の取り組み

さきほどは、プラスチックゴミやマイクロプラスチックによる害を伝えました。それを少しでも減らすため、各県や企業も取り組んでいます。例えば、私達の住む神奈川県。2030年までにプラごみゼロを目指す「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、コンビニ・スーパー・レストラン等と連携し、プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止や回収などの取り組みをしているそうです。他では、富山県が「レジ袋無料配布廃止」をし、マイバック持参率が95%と高くなったり、徳島県上勝町では、「ごみゼロの町」として、ごみを洗い、45種類に分別し、ごみ全体の81%がリサイクル・堆肥化されているそうです。企業の取り組みとしては、スターバックスでプラスチックストロー使用禁止やタンブラーのリサイクル、すかいらーくでは各種プラスチック製品の廃止したりしているそうです。少しでもプラスチックが減ると良いですね。

4 コロナ禍によるプラスチックの変化

プラスチックの削減に向け、各県や企業が取り組んでいますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、プラスチックゴミは急増しています。みなさんも、思い返してみてください。例えば、テイクアウトをする時、プラスチック製のお皿や、使い捨ての物がほとんどではないでしょうか。他にも、マスクや使い捨てゴム手袋などの使用が急増しています。これは、日本だけではなく、イギリスでは、ロックダウンにより家庭ごみが急増したり、タイの首都バンコクでは2020年4月の1日あたりのプラスチックごみの排出量が前年比62%も増加しているそうです。プラスチックゴミの削減は、そう簡単にはいかない、深刻な問題ですよ。

単位: kg

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2019	64,820	52,290	53,000	58,100	63,409	52,160
2020	63,350	51,520	59,510	65,720	62,660	61,760

表1 亀岡市におけるプラスチック製容器包装類の回収量の推移 (出所: 亀岡市提供資料をもとに筆者作成)
日本で初めての
コロナ発生

5. 私達にできること

プラスチックを減らすには、一人一人の努力が欠かせないと私は考えます。各県や企業に取り組んでいるのをただ傍観しているのではなく、みんなが積極的に行動していきましょう。

〈具体的な取り組み〉

- マイバックを使用し、レジ袋はもらわない
- マイボトルを使用し、ペットボトルやストローの使用を減らす
- ビーチクリーンや河原の清掃活動に参加する
- 魚を買うときは認証マークのついた商品を選ぶ

みんなで、プラスチックゴミで命をおとしている生き物を減らしましょう!

〈参考〉

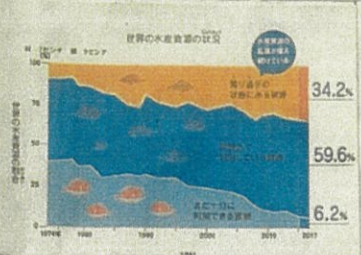
- Spaceship Earth.jp
- www.mymizu.co
- www.factas.jp
- www.shinrinbunka.com
- www.google.co.jp
- sdgs.edutown.jp



みんな
協力してね!
バイバイ

今すぐ取り組もう! SDGs14

SDGs
新聞



海の危機?

今の海ではプラスチックが海に流れ、魚が食べると私たちが食べる魚が減ります。海の危機です。

上の図を見ると、利用可能な資源が減少しています。海の危機です。

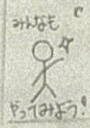


私たちにできること

プラスチックのゴミを減らす。海をきれいにする。ゴミを適切に処分する。海をきれいにする。海をきれいにする。

海をきれいにする。海をきれいにする。海をきれいにする。

- (クイズ?)
- ① プラスチックの総量は海にどれくらい流れている?
 - ① 80万トン
 - ② 800万トン
 - ③ 8000万トン
 - ④ 80億トン
 - ② 世界のプラスチックごみの排出量は特にどの国が多いでしょう?
 - ① アメリカ
 - ② インド
 - ③ 日本
 - ④ 中国



S D G s 12

の く り 責任

の か り 責任

も く じ

1. S D G s 12 「つくる責任 つかう責任」
について
2. 食品ロスについて
3. 電子ゴミについて
4. 4 R について
5. 企業の取り組みと
私たちにできることについて

《 S D G s とは 》

S D G s とは 「Sustainable Development Goals」 (持続可能な開発目標) の略称です。

S D G s は 2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。

「貧困をなくそう」 「安全な水とトイレを世界中に」 「すべての人に健康と福祉を」 「飢餓をゼロに」 など様々な目標があります。

《 S D G s 12 とは 》

S D G s の目標12 「つくる責任 つかう責任」 は持続可能な生産消費形態を確保し、資源の枯渇を防止することを目的としています。

目標12の主な課題は、「食品ロス」、「廃棄物リサイクル」、「電子ゴミ」、「天然資源の枯渇」など、多くの課題があります。

S D G s 12 を達成するために様々な企業が取り組みを行っています。

《食品ロスについて》

今、日本では年間約612万トンの食べ物が捨てられています。その量は大型トラック1680台分です。

その内、54%が事業系食品ロスで、46%が家庭系食品ロスです。

現在、事業系食品ロスも、2030年までに273万トンに減らす、という目標が立てられ、多くの企業が取り組みを行っています。

そこで私は、学校の給食でも残したら捨てられてしまうことを知り、学校や家庭ではなるべく食べきることを意識していきたいと思いました。また、家庭では、食べきれぬ量と買ったりすることが大切だと思いました。

《電子ごみについて》

電子ごみとは、捨てられた

スマホやパソコン家電などの電気・電子機器ごみのことです。

電子ごみの世界の年間排出量は約5000万トン。2050年までには、1億2000万トンになると予測されています。

電子ごみの多くはうまく処分されていますが、その処分場がなくなっている国も多くあり、問題になっています。また、電子ごみは有害物質もふくまれるため、環境汚染だけでなく、健康被害が心配されています。

《4Rについて》

今までは、3R「リデュース」「リユース」「リサイクル」が進められてきました。

近年では、新しく「リフース」(不要なものは拒否する)が加わり、4Rが主流となっています。

例えば、紙袋をもらわない。

包装を断わるなど身近にできることは沢山あります。また、袋の有料化が基本になっていたりもしています。

マイバッグを持参したり、袋を断わったり自分にできそうなことを積極的に行っていきたいです。

《企業の取り組みと 私たちにできること》

SDGs 12を達成するために様々な企業が色々な取り組みをしています。例えば、ユニクロは、環境にやさしい服をつくり、着なくなった服を回収し、服を必要としている人たちに届ける「全商品リサイクル」の導入などを行っています。また、セブン&アイホールディングスは、店頭でペットボトルを回収し資源を循環させたり、バラ売りを導入したりして達成のための取り組みをしています。

そんな中、私たちができることは、企業の取り組みに参加したり、マイバッグ持参、環境や人権に配慮された商品を選んで買ったりすることです。私は、身近にできることが沢山あることを知ることができたので、これから自分から進んで行動に移していきたいと思います。

海の豊かさ

を

守ろう

KOKUYO
2-2-303N

海は全ての生命の源

地球の7割を占める海。この豊かな海は、地球のあらゆる生命の源です。そして、海からは私たちが生きるための食べ物など、多くの恵みを受け取っています。

しかし、その海が、今深刻な問題を抱えています。

ひとつは魚などの獲り過ぎで、多くの海の資源が減ってしまったこと。

もうひとつは私たちが出すゴミや排水で海が汚れてしまっていることです。

⑥ 海の資源が減っている

世界的な健康ブームで魚を食べる人が増え、魚を獲る量が増加し、違法な漁業も増えています。

その結果、魚資源が減ってしまい、まだ十分に利用できる水産資源がたったの6.2%になってしまいました。

○ マグロやウナギが食べられなくなる?

世界の人口が増え、漁業の技術も進歩したせいで、「魚の獲りすぎ」が問題になっています。魚が大好きな日本人におなじみのマグロやウナギも絶滅危機にあります。